

青森県立中央病院 がん診療センター

令和5年12月25日発行

Contents

- P1 ごあいさつ
- P2 「けんみん公開講座
～進歩するがん医療～」報告
- P4 外来治療センターの拡充
- P5 がん相談支援センターの紹介
- P6 薬業連携の紹介

しかへでけ
No.1

* ごあいさつ

ニュースレター発行にあたって

青森県立中央病院副院長・がん診療センター長 棟方 正樹



がん対策推進基本計画において「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」が定められ、2008年4月、当院は都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、本県におけるがん診療の質の向上やがん診療の連携協力体制の構築に対し中心的な役割を担うことが求められました。同年、がん医療のレベルアップを図るために、緩和ケアセンターを含めた11の診療科とがん診療センター企画室などの事務企画部門も有した「がん診療センター」を開設し（図1）、各部署と連携し、本県全体のがん医療の均てん化にも努めています。

院内がん登録を見ますと、2022年には約2600名の新たながん患者さんが当院を受診されています。患者さんの治療効果のみならず、QOL（生活の質）を上げるために、医師だけでなく、看護師、薬剤師ら多職

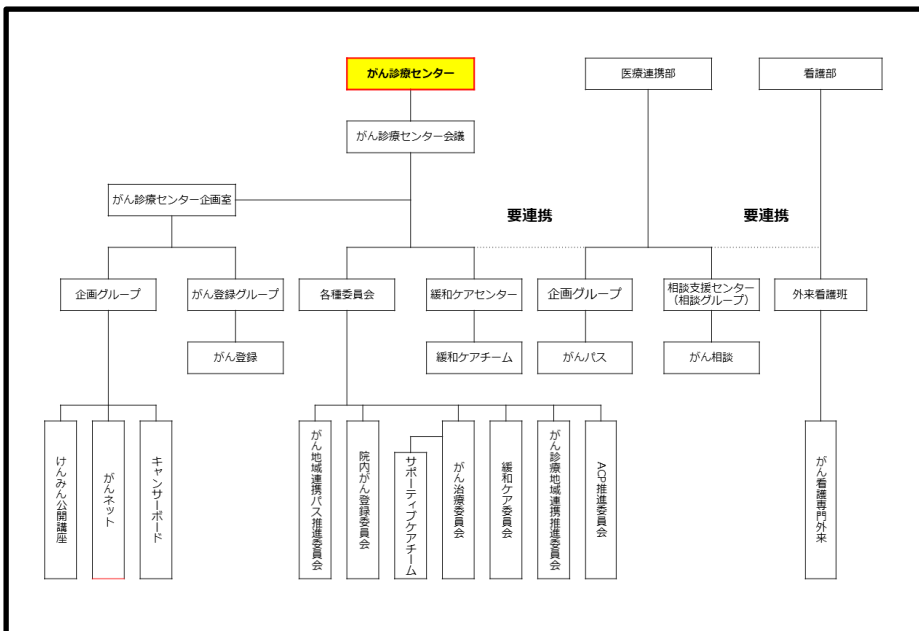
種のチーム医療で、安全で効率的ながん治療にあっています。最近ではサポーターケアチームを発足し、支持療法も含めた患者サポートの更なる充実を図っています。COVID-19流行下で患者の医療機関への受診の控えや健康診断の受診の延期等により、当院でも手術数は減少しましたが、外来治療センター利用患者数は増加しています。抗がん薬、特に分子標的治療薬の他、免疫チェックポイント阻害薬の適応疾患の拡大により治療成績の向上によるためです。そのため、外来治療センターを拡充しました（P4参照）。

本県は全国一の短命県で、その対策として、特にがんによる死亡者数の低減、がん医療の質の向上が重要です。県民に対しがんに関する正しい知識の普及を行うとともに、医療従事者の資質の向上を図るための取り組みも行っています。

この度、がん診療センターの活動を病院職員はもちろんのこと、他施設の医療従事者、当院を利用される皆様に広く知っていただくために、ニュースレターを刊行することとしました。

第1号のニュースレターは、10月28日（土）に開催された「青森けんみん公開講座」、テーマ「進歩するがん医療」についての報告を特集とし、その他に「外来治療センターの拡充」、「がん相談支援センターの紹介」、「薬業連携の紹介」を掲載しています。今後も患者さんと医療従事者にとって有意義なテーマを取り上げていきたいと思っています。まず、第1号のニュースレターを御一読ください。

図1. 青森県立中央病院がん診療センター組織図



※「しかへでけ」とは、青森県の方言で「教えてください」という意味です。

* 「けんみん公開講座 ～ 進歩するがん医療 ～」 報告

青森県立中央病院がん診療センターの恒例行事「けんみん公開講座」が、2023年10月28日（土）、青森市内において開催されました。本講座は、多くの県民の皆様ががん診療の最新情報や当院のがん医療への取り組みなどについて広く知っていただく場としております。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見合わせ、2022年度はWeb形式での開催を余儀なくされましたが、今年度は、以前同様の集合形式での開催になりました。

今回の開催テーマは「**進歩するがん医療**」とし、県内の医療系大学で学ぶ学生が6校111人、医療分野へ志望のある高校生が13校115人、合計226人が参加してくださいました。

プログラムの第一部では、「**進歩するがん医療と正しい治療選択**」と題して、吉田茂昭病院事業管理者ががん医療はどのように進歩してきたのかの解説を行いました。

各論では、「**進歩するロボット手術**」について大山力特別顧問、「**進歩する放射線治療**」について横内順一放射線科部長、「**進歩する薬物治療**」について齋藤絢介弘前大学医学部附属病院腫瘍内科助教、からそれぞれ詳しい説明を行いました。また、「**進歩するがん看護**」として、がん患者さんを支えるがん看護の視点から、山下慈がん看護専門看護師が専門・認定看護師の役割や看護師の実践事例について紹介しました。参加した会場の高校生の皆様からも、いろいろな質問をいただきました。

第二部では、フリーアナウンサー川口浩一氏から、「**思いがけずがんになった**」と題して、がん患者として体験した治療やその間の生活、そしてその時に考えたことなどについて、体験談を発表していただきました。

その後、25グループに分かれて「**グループ討論**」をしてもらい、講演や体験談などを聞いて思ったことなどを話し合っ、発表していただきました。

本講座では、がんという病気は決して「**不治の病**」ではないこと、日々がん医療は進歩しており、それと共にがん患者さんをサポートする体制も整ってきていることなど、大学生や高校生の皆さんにとって、診療現場からのメッセージに接する有意義な機会になったのではないのでしょうか。

これからも、このような情報発信の場を設けていきたいと考えています。

| | |
|--------------------|--|
| 総合司会 | 青森県立中央病院 看護専門官（がん放射線療法看護認定看護師） 鈴木 恵里子 |
| 第1部 12:40～14:20 | 座長 青森県立中央病院 がん診療センター長 棟方 正樹 |
| 基調講演 | 「 進歩するがん医療と正しい治療選択 」 青森県病院事業管理者 吉田 茂昭 |
| 発表1 | 「 進歩するロボット手術 」 青森県立中央病院 特別顧問 大山 力 (元弘前大学医学部附属病院長) |
| 発表2 | 「 進歩する放射線治療 」 青森県立中央病院 腫瘍放射線科 部長 横内 順一 |
| 発表3 | 「 進歩する薬物治療 」 弘前大学医学部附属病院 腫瘍内科 助教 齋藤 絢介 |
| 発表4 | 「 進歩するがん看護 」 青森県立中央病院 看護専門官（がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師） 山下 慈 |
| 質問コーナー | あなたの質問に答えます！ |
| 第2部 14:30～15:20 | 座長 青森県立中央病院 がん診療センター統括部長 久保 恒明 |
| 患者体験談 発表 | 「 思いがけずがんになった 」 フリーアナウンサー 川口 浩一 |
| グループ ワーク | 「 参加してみて感じたこと・思ったこと 」 |



【高校生ボランティア協力校】

青森高校 青森東高校 青森南高校 青森西高校 青森中央高校 青森商業高校 青森山田高校
青森工業高校 東奥学園高校 三沢高校 八戸西高校 明の星高校

【一般受講参加校】

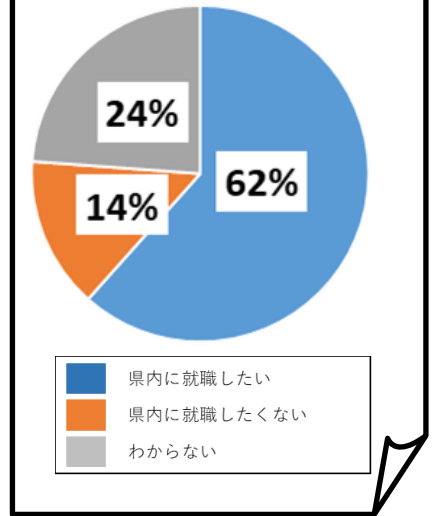
弘前大学 弘前医療福祉大学 青森大学 青森中央学院大学 青森県立保健大学 七戸高校

参加者へのアンケート結果や寄せられた感想は、次の通りです。

- 1 本講座の参加理由では、「がん医療・がん看護についてもっと知りたかったから」が最も多く、次に「将来、医療者になりたいから」「医療に関心があったから」等となっていました。
- 2 参加して良かったと思う理由では、「最新の手術・放射線療法・薬物療法、看護、色々な視点での医療を学べたから」が多く、次に「がん看護の実践、認定看護師の活動を知り、関心を持てたから」「青森のがん医療の現状、課題を知ることが出来たから」などとなっていました。
- 3 県内への就職希望については、「県内に就職したい」が62%を占めていました。
- 4 「大学生を対象にした講座の必要性について」では、100%が「必要だと思う」と回答していました。



県内への就職希望



参加者からの意見をテーマ別にいくつか紹介します。

【がんになっても生きられる時代になっていることへの学び】

・今回の講演を受けて、がんに対する考え方・向き合い方に変化がありました。がんになったら最悪の場合、死、命が助かってもし辛い思いをするというイメージだったけれども、医療技術の発達により苦しみも少なく、生存率も向上するということを知ることができ、貴重な経験となりました。

がん予防の大切さ

がん治療が年々進歩しているということがわかった。治療に頼るのではなく、検診での早期発見をもう少し大事にしていけるような環境作りをしていかなければならないと感じた。

ロボット手術に関する学び

青森県はロボット手術の先進国だということに意外性ももちました。ロボット技術のメリットが講演を聞いてわかった。

がんになっても生きられる時代になっていることへの学び

今回の講演を受けて、がんに対する考え方・向き合い方に変化がありました。がんになったら最悪の場合、死、命が助かってもし辛い思いをするというイメージだったけれども、医療技術の発達により苦しみも少なく、生存率も向上するということを知ることができ、貴重な経験となりました。

がん医療と患者のQOL

ただ治療するのではなく、患者さんの生活や体調などを知ったうえで、治療計画が立てられていることを知り、医師に相談して、自分のことを知ってもらおう事も大切だということに気が付きました

最新の放射線療法に関する学び

放射線治療は副作用も苦しいけれど、それを乗り越えた先にある生活が今まで以上に良いものになることを改めて感じた。

最新の薬物療法に関する学び

抗がん剤治療は、個別化治療が主流になっていくと知った。患者の個性に合った治療を提供するために医療従事者として深い知識を身につけ、良い治療・看護を提供していきたい。

将来目指す医療者像に関する学び

ロボット治療や放射線治療などがん医療は進歩している。中でも、がんを診断を受けた患者さんや家族は、不安や恐怖が大きく、身体的だけではなく精神的負担が大きいと改めて感じました。その不安や苦痛を少しでも軽減できるよう、患者の立場に立って、寄り添った支援ができるようにしていきたい。

がん看護の大切さ

がんと告知されてから、患者さんは自分の体を管理しながら、通院や入院を繰り返す大変さがあることを知った。将来看護師を目指す人として、患者さんの思いを理解できるよう、関わりながら患者さんに寄り添った看護をしていきたい。

* 外来治療センターの拡充

— 患者さんが治療と生活を両立するために —

外来治療センター 看護師長 本堂 郁子



当院の外来治療センターは平成15年に設置されました。当時は入院で化学療法を行う患者さんが多く、外来で化学療法を行う患者さんは限られていました。しかし、新薬の開発や、副作用に対応する支持療法法の進歩等により、今では大半の治療が外来で行えるようになりました。新型コロナウイルス感染症の影響により病床制限が行われ、一層、外来での治療が求められるようになり、2022年に当センターは変革を迎えることになりました。

まず取り組んだことは、28床の病床数と1日51人までの予約患者数の見直しです。11名の看護師と限られたスペースで、効率的に治療を行う方法を検討するため、2022年と2023年に6施設（東北大学病院、静岡県立がんセンター、国立がんセンター東病院、埼玉医科大学国際医療センター、群馬大学附属病院、都立駒込病院）への視察を行いました。それらを参考にして、がん診療センターに関連する診療科医師、看護師、薬剤師、事務職等がこの課題に向き合い、以下の取り組みを開始しました。

1. 看護師の働き方改革

これまでは、1人の看護師が同時に担当する患者数を4人程度にして治療を行ってきました。これでは、看護師が急に休んだ場合には、一度に受け入れられる患者数が制限されてしまいます。

このため、他院を参考に、3～4人の看護師で16人の患者を担当する体制に変更しました。これによって、看護師が互いに助け合い、患者さんの受け入れ数を制限しなくても治療が行えるようになりました。

2. 病床数の見直し、待機患者への対応

病床数を28床から、2022年に32床へ、2023年12月には35床に段階的に増床しました。看護師の働き方改革と併せて増床を行ったことにより、最大3～4時間の待ち時間が1～2時間に短縮しました。また、患者さんには、外来治療センターの1日の利用患者数、待機が発生した場合には順番がわかるように、入室した順に整理券を配布するなどの見える化に取り組んでいます。

3. 予約の見直し、変更

以前は1日最大51人までを予約としていました。しかし、祝日がある月は、その分、治療ができない患者さんが増えてしまいます。また、治療を必要とする患者さんが多く、51人という予約枠自体に限界が生じていました。そこで、東北大学病院を参考に、1日24時間を上限にして予約を受けるシステムに変更しました。治療によっては1時間で終了する患者さんみれば6時間の患者さんもいます。「人」という単位での予約から「時間」の単位での予約にしたことで、安全に治療を行える範囲内で患者さんを受け入れることが可能になりました。

4. 採血業務

2022年1月から、当日外来治療センターで治療のある患者さんに限り、8時15分から9時までの時間に限定して採血を行っています。検査科の協力で迅速に検査結果が出るので、診察及び外来治療センター入室までの流れがスムーズになりました。

当院の外来治療センターの利用患者数は急増しており、全国でも有数の治療実績になっています。一方で、複雑な治療が増えており、看護師の知識や技術を高めるために、定期的に薬剤の勉強会や、治療中のアレルギー症状に対応するための訓練なども行っています。患者さんが十分に治療内容を理解し、安心・安全に治療が受けられるよう、今後も一層努力していきたいと思っております。



* がん相談支援センター

がん相談支援センターの紹介

医療連携部 がん相談支援センター 看護師 坂本 周子



「がん相談支援センター」とは、全国のがん診療連携拠点病院などに設置されている相談窓口です。がんの治療や療養に際して、患者さん、ご家族、地域の方々のさまざまなご相談に対応しています。

当院以外に通院されている方にも対応しています。相談は無料で、対面、電話どちらでも相談できます。

- どんな小さなことでも相談できます。

「こんなことを聞いてもよいのだろうか?」と思うようなことが、治療や生活、仕事の継続などを考えるうえで、実は重要なことだったりします。

- どんなタイミングでも相談できます。

「がんかもしれない」と言われている時期、告知を受けこれから治療が始まる時、治療中、治療後。どんな時期でも相談できます。

<どんなスタッフが対応してくれるの?>

【がん相談支援センターで相談できることの例】

- 検査・治療・セカンドオピニオン
- がんの予防や検診について
- ゲノム（遺伝子）検査について
- 治療の副作用
- 患者さんやご家族の心のこと
- 先進医療・臨床試験について
- 社会との関わり
- 医療者とのコミュニケーション
- 家族との関わり
- 緩和ケア
- 経済的負担や支援について

がん詳しい看護師、生活全般の相談ができるソーシャルワーカーが相談員として対応しています。国が指定した研修を修了した相談員は「がん相談支援センター」のロゴをかたどったバッジを着けています。

【こんな事もやっています!】

<仕事に関する相談>

「がんと言われたけど、仕事をどうしようか。」「治療しながらも働きたい。」「体調に合わせて働けるところを探したい。」「職場に復帰予定だけど、前のように仕事ができるか不安。」などの仕事に関するお悩みを相談員がお聞きし、治療しながら仕事をどうするか一緒に考えます。

毎週水曜日は、ハローワーク青森の就職ナビゲーターや産業保健総合センターの担当者の相談会も行っています。ハローワークには仕事を辞めてから行くところというイメージがあるかもしれませんが、仕事を辞める前に、どんな仕事があるのか話を聞く事もできます。

- 予約制 017-726-8435

<アピアランス相談>

手術、抗がん剤、放射線などのがん治療の影響により、傷あと、脱

毛、皮膚の変色など外見が変化することがあります。治療による外見変化を少しでも気にせず生活が送れるよう、相談員が、気持ちの整理のお手伝いや、外見変化の対処方法について情報提供しています。

<がん患者さんのための運動教室>

運動教室を2024年1月から再始動します!

がん治療しながら、体力を維持したい方、少しずつ体力をつけたい方を対象に1時間程度の運動教室を開催します。

<がんサロン>

がんサロンを2024年1月から再始動します!

上記の運動教室の後に開催予定です。運動教室とセットでの参加もOKです。がんサロンのみの参加もできます。

サロンでは、がんを経験している同じ立場の人が、気軽に語り合える場です。悩みや不安など共通する体験を持つ人が集まって情報交換することで、気分が軽くなったり快適な療養生活のヒントを得られたりすることがあります。ひとりで抱え込まずお話しに来てみませんか?

- 予約制 017-726-8435

今後の開催予定

2024年1月18日(木)、2月8日(木)、3月16日(土)

※運動教室は13:00~14:00、がんサロンは14:00~15:00

【相談員からのメッセージ】

正しい情報は生きる力になることがあります。今はネットなど様々な情報が溢れていますが、あなたに必要な情報を一緒に探し、解決の糸口を一緒に考えます。がん相談支援センターに来られた方は「もっと早く来れば良かった。」と話される事が多いです。相談という構えてしまうかもしれませんが「ちょっと聞いてみよう。」「ちょっと確認してみよう。」という程度で利用してほしいです。



